



今月の主な目次

- 新乳価とその求められている背景
- 牧草地の肥培管理・冬枯れ草地の対応と堆きゅう肥の有効利用
- 乳牛の分娩前後の飼養管理
- 作物別・形態別のアクレモ使用効果
- 就農3年目を迎えた若き酪農家
- ホル子牛・F1子牛兼用代用乳・つよしくん

時の話題

北国にも“春”到来

このニュースが、皆様のお手元に届く頃は、桜前線も津軽海峡を渡り、春爛漫の季節をお迎えのことと拝察します。厳しい冬の寒さを乗り越えたものにとつて、春は、喜びに満ちあふれたものがあります。“北国の春を満喫しつつ、やるべきことは手を抜かず、気を使うところは、実行計画に組み込み、稔り多き年となるようご健闘願います。周辺の環境整備

酪農・畜産農家におかれては、使用する機械の種類も多く、古くて使われないものから、新しいほやほやのものまで、所せましと並べられているケースが多いものです。

冬場は、雪で覆われて、あまり目立ちませんが、春の息吹の中では、その見苦しさが際立ってきます。物置・牛舎周辺の雑物は、それに気づく、この季節に、ぜひ環境整備を進めたいものです。

口蹄疫予防の徹底

イギリス・EUでの大発生が報ぜられ、遠くの国でのできごととは言え、大変心配です。

昨年、宮崎や北海道十勝での発症を経験しているだけに、他人事とは言えず、不安もつのがります。政府レベル、行政レベルでの取り組みは別として、私たちにできることは、きちっと対処しましょう。

①外部の方が牛舎に入る時は、靴を薬浴させるか、オーバーシューズを履いてもらいましょう。
②自動車のタイヤも消毒できる仕掛けを準備し、入りこむことを防ぎましょう。

③輸入粗飼料・敷料に混じって入りこむ危険性が指摘されています。東北・北海道は、日本の中では、その生産基盤に恵まれています。どうか自賄度や周辺エリアからの調達度を高める工夫と努力を惜しまないで下さい。

④集団・地区レベルでの予防強化を高めましょう。つきつめれば、上記すべてが、ここに集約されてきます。地域としての生き残りがかかっています。農酪協はもとより、行政・民間を含めた対策が必要で、万全を期して行きましょう。

地球温暖化？

稲・麦、酪農ではトウモロコシの品種選定に影響してきます。牧草地は短年〜長年利用されますので、その草種・品種選定は、もつと重要です。温暖化は、長い年月をかけて、そのトレンドにあるという受け止めでよいと思います。その間、冷害の年も勿論はさまれて来るとでしょう。

どうも寒暖の振幅が大きくなって来ていると思えてなりません。さらには、地域緩衝能が弱まって来ているのでは、というような気がします。これから推し量ると、春耕期〜初夏にかけての晩霜被害が想定されます。トウモロコシの播種深度を二〜三cmと、若干深めに落とすことが必要です。

(研究本部長 山下 太郎)